

月刊しばうら

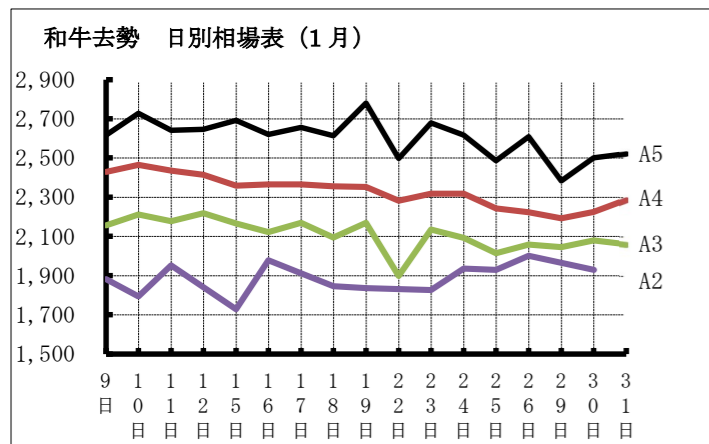
2024年 2月号

牛肉営業部

<1月の相場動向>

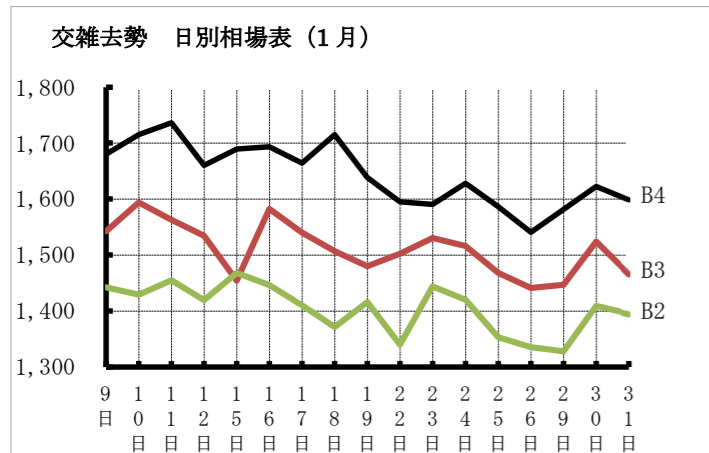
1月は1年の中でも牛肉の最需要期である12月の翌月であるため、前月の相場を下回る傾向の中、前年同月よりは高い相場となった。

前年は年始早々に食料品価格の値上げがあり、警戒感も強かったことから下げ基調が強くており、その相場との比較となる為、今年も節約志向にあることは変わりが無い。また、今年は年始の初入荷が遅いこともあって、相場が下落するタイミングが通年よりも後ろにずれ込んだとみられる。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,624円	+45円 101.7%	-145円 97.7%
A4	2,338円	+31円 101.3%	-116円 95.3%
A3	2,120円	+15円 100.7%	-25円 98.8%
A2	1,896円	+99円 105.5%	+142円 108.1%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,649円	-13円 99.2%	-119円 93.3%
B3	1,519円	+37円 102.3%	-139円 91.6%
B2	1,403円	+98円 107.5%	-78円 94.7%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	-	-	-

<2月の牛肉輸入量予測>

財務省が発表した輸入通関実績によると、12月の輸入量は前年同月比3.6%減の3万6,108tで、うちチルドは2.7%減の1万5,036tと下回った。フローズンは前年同月比4.2%減の2万1,073tと下回った。

農畜産業振興機構によると1月の牛肉輸入数量は、前年同月比8.8%減の3万6,400t(チルド3.5%減・冷凍12.2%減)、2月は9.7%減の3万4,300t(チルド1.5%増・冷凍15.6%減)で予測している。

2月のチルドは豪州産の生産量が増加するとみられ、その他の国からの輸入は少なくなるものの、前年同月を上回ると予想。フローズンについて豪州産は増えるものの、その他の国からの輸入量は減ることから、前年同月を下回ると予測している。

輸入牛肉通関量	12月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	6,942	6,016 107.5%
	米国	6,815	9,662 89.4%
	その他	1,279	1,958 65.3%
	合計	15,036	17,636 97.3%
フローズン	豪州	9,022	8,289 98.8%
	米国	8,009	7,803 99.4%
	その他	4,042	5,720 70.7%
	合計	21,073	21,812 95.8%

出典：食肉速報 単位：t

<2月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構による2月の出荷予測頭数は、全体で前年比102.0%の8万5,000頭で、品種別にみると和牛は5.7%増の3万8,100頭、交雑種は5.6%増の2万700頭、乳用種は4.7%減の2万4,900頭と予測している。

東京食肉市場の2月のと畜頭数は6,060頭を予定しています。

<2月の牛枝肉相場見通し>

1月は入荷が遅く、手当て買いも含めて需要が一巡するまで相場が維持された面もあったが、2月は一年の中でも最も牛肉需要が低迷する月のひとつで、相場は低迷しがちであり、今年も例年通りとなりそうな雰囲気である。

また、出荷適齢牛が多いことから、出荷が順調に進めば相場低迷の要因ともなり得る。加えて物価上昇やエネルギー高騰などもあり、節約志向から牛肉が敬遠されがちな傾向は継続すると考えられる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450~2,800	B4	1,500~1,600
A4	2,200~2,400	B3	1,350~1,450
A3	2,050~2,200	B2	1,200~1,300
A2	1,800~2,000		
乳牛去勢			
B3	950~1,050		
B2	800~900		

豚肉営業部

12月の全国と畜頭数は、146万1,938頭(前年同月比0.1%減)と前年を下回った。また12月の豚肉通関数量は6万7,750t(前年同月比1.7%減)と前年を下回り、前月比では9.5%の減少となった。内訳はチルドが3万873t(同15.9%増)、フローズンは3万6,876t(同12.8%減)。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
4	73,794	109,570	20,573	204,045	73,312	95,096
5	76,116	89,726	20,193	223,902	76,372	69,869
6	73,486	81,311	19,586	225,208	73,928	80,005
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
比	102%	98%	108%	92%	102%	104%

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

1月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	13,558	100.7%	デンマーク	3,176	68.5%
カナダ	13,854	142.3%	スペイン	11,619	84.3%
メキシコ	3,426	99.7%	メキシコ	6,083	85.0%
			アメリカ	4,005	181.6%
			カナダ	2,557	126.0%
合計	30,873	115.9%		36,876	87.2%

単位：t

<1月の豚取引の推移>

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
6日	-	508	498	1,040
9日	76,500	492	486	1,132
10日	72,900	497	488	1,192
11日	71,500	492	478	1,023
12日	69,700	489	481	1,241
15日	70,300	488	480	954
平均	72,180/日			1,097/日

東京の初セリとなった6日は上物508円でスタートした。成人の日の3連休もあって補充買いも期待されたが相場は軟調な展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
16日	72,400	496	473	1,078
17日	70,000	496	475	813
18日	71,900	481	468	870
19日	65,000	480	464	1,116
22日	70,300	488	471	921
23日	70,900	492	474	1,024
平均	70,083/日			970/日

全国と畜頭数は比較的安定し、概ね7万頭台で推移した。正月休み明け以降の節約意識の高まりと、暖冬によって鍋物需要がなかなか伸びない状況が続いたことで、相場は490円絡みの展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	68,200	485	469	649
25日	68,300	480	468	829
26日	65,100	481	466	995
29日	67,400	482	468	945
30日	67,700	493	483	985
31日	67,900	509	496	779
平均	67,433/日			864/日

寒さが厳しくなってきたことで、ようやくバラ・カタロースなどの中部位の引き合いがみられるようになった。相場は引き続き軟調な展開が続いたが31日には上物相場が500円を超えた。

<2月の豚枝肉相場見通し>

農林水産省による令和6年2月の肉豚出荷予測では131万9,000頭(前年比100.5%)と予測している。当市場の2月集荷予定せり頭数は1万7,000頭、1日あたりでは約894頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると2月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万800t(同99.4%)、内訳は冷蔵輸入量が3万1,900t(同103.3%)、冷凍輸入量は3万8,900t(同96.4%)と予測。

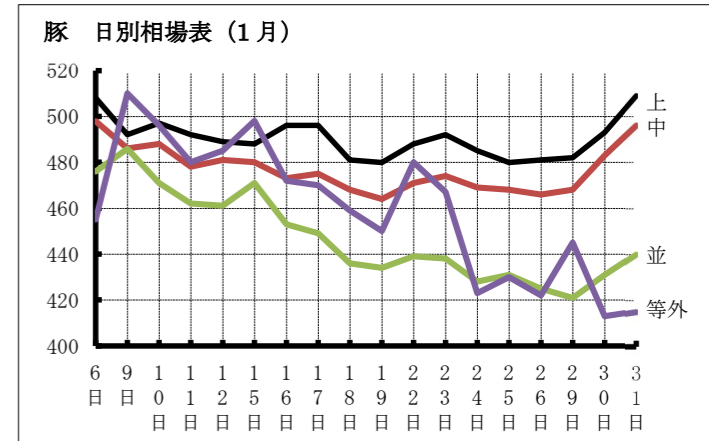
冷蔵品輸入量は前年のカナダ産の輸入量が入船遅れの影響により少なかったこと等から、前年同月をやや上回ると予測する。同じく3ヵ月平均でも前年同期をやや上回ると予測する。

冷凍品輸入量は紅海周辺の情勢悪化により物流に混乱が生じており、欧州産の輸入量が減少することが予想されることから、前年同月をやや下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期をやや下回ると予測する。

2月は需要の端境期となる為、スソ物中心の荷動きとなることが見込まれる。相場は3連休が2週続くことから、手当て買いが入ることで相場は一時的に上昇する可能性があるものの、全体的には安定した相場展開となりそうだ。

供給面では例年、寒波による増体悪化や雪による出荷遅れなど、出荷頭数に影響が出る時期となるが、今年は暖冬の影響により、引き続き枝肉重量は大きい傾向にあり、順調な出荷頭数が見込まれる。

以上のことから当市場の上物平均価格は580円前後、中物平均価格550円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127